

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	37 / 2016 / 28 - 29 (再編集版)
タイトル	「森の広場」への名札設置の経緯
著 者 名	五十嵐正俊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

「森の広場」への名札設置の経緯

第3代 五十嵐 正俊

「森の広場」で市民観察会を企画してから10年目に入る。年2回開催なので今年は20回目の節目の開催に当たる。回数を重ねているうちに遊歩道沿いの草木に名札を付けられないものだろうか?と思うようになった。もし、主な草木に名札が付けば「森の広場」を「植物園」的に利用できるのではなかろうかと思った次第である。

それで、一時細井幸兵衛さんのご厚意で小さなプラスチック片にマジックで名前を書いて草木に取り付けたのだったが、耐候性が悪く、書いた文字が消えてしまうのだった。だからといって耐候性のある立派なものでは予算も掛かり個人的な対応は不可能だと思われた。それで市長さんと話し合う機会があったので予算的な援助は出来ないものだろうか?と伺ってみた。その結果、「その程度の予算は出しますよ」という言質を頂いたのであった。

とはいうものの、「森林博物館」の庭にある名札は1個数千円掛かったと元博物館職員だったKさんから聞かされていた。

いっぽう、「青森・草と木の会」の皆さんによって「森の広場」にある植物が調査されて、約400種の植物がリストアップされた。そして各植物の花期などが表に纏められている。

もし、その半分程度でも名札を作るとすれば数十万円の予算が必要となる。数十万円の予算処置となれば担当課(担当職員)としても「消耗品」的扱いは少し難しくなるかも知れない。また、石郷岡総一郎さんが「青森・草と木の会」が調査した植物リストを基に「合弁科」「離弁科」「単子葉植物」「裸子植物」などに仕分けて印刷用のファイルに仕上げてくれていた。では可能な限り、耐候性があり、比較的低コストの名札を作れないものだろうか?と「SUNDY」の店頭で物色を始めたのだった。

先ず基板になる良いものが無いか探していると「プラダン」というプラスチック製の「ダンボール」が目に入った。プラスチックなので濡れても問題は無いし切断も簡単、色は色々あるが黒もある。しかも軽い、基盤としては理想的である。

石郷岡ファイルをプリントしてラミネート加工すれば良さそうに思った。しかし、プリントのサイズ、取り付けのポールなど未定のまま市の担当者に依頼したのだったが、プリントサイズが大きく、取り付け用の木杭は太くてそのままではスマートさに欠けることに気がついたほか、ラミネート加工した名札の取り付け方法について最初に考えたのは釣り糸のテグスを取り付けその間に名札を挟み、ビニールテープで固定する案だったが、試行・錯誤の結果ビニールテープが風化して固定できないことがわかった。

改良点を模索しているうちに山道さんからプラスチックの細工に使う「グルーガン」を使って張り付けられれば?とのアイデアを貰い、現物があるからと持って来てくれた。また、プリントの仕方も1度に複数枚の名札がプリント出来ることに気がついた。

さらに園芸用の「のびる支柱」が100円ショップで売られていることに目が付きそれを手に取って見ると、それぞれ2本に分解できるのだった。このポールは2組セット(型番80)と3組セット(型番77)の二つの型番がある。二組セットの方は少し長い。これらのポールをそれぞればらすと4本と6本に分解される。以上の様な経過で、組み立て方法を考えてみた。必要な材料を整理すれば次のように

なる。

- ① プラダン:B4版(使用時は1/4に切断、B6版大になる)
- ② ラミネートフィルム(L版:百枚入りの箱がある)
- ③ 園芸用ポール(型番:77番、80番)→伸び縮み可能なもので、それぞれ2本に分割できる。

以上3点は市の担当課(文化・スポーツ振興課)で購入して貰う。

以下名札取り付けまでの作業手順(手作業が多い)を記しておきます。

- ① 石郷岡ファイルはB5版のコピー用紙に複数(4コマ、枠付き)で印刷して1種毎に枠の内側で切断。
- ② 切断した名札をラミネーター(小山内さんの保育園から借用していた)で加工。ラミネーターはA3サイズの機種だと1回に2枚処理できる。7,000円程度で購入可能(この作業までは市でやって貰える?)。
- ③ 「プラダン」への貼り付けは「グルーガン」(グルーガン、スティックは共に100円ショップで購入できる)を使って貼り付ける(裏側4隅の内側に解けたスティックを垂らして冷めないうちにペンチなどで押しつけて接着:堅い板の上での作業)。
- ④ ポールまたは樹木へ取り付けるための穴を開けて準備(細い針金にビニールを被せた園芸用の結束バンドがある。色は黒または褐色がある。紐は黒いプラスチックを編んだものがある(農業用)。草本用は細いマイナスドライバーで中心部に2cm間隔で上下に、木本用はドライバーセットの穴開け用の針などを熱して紐が通る程度の穴を2カ所やや広い間隔(5-6cm程度)で上部に開ける。
- ⑤ 以上の準備ができればポールへ縛りつける作業と木本用の場合は樹木に縛りつける紐を通して置く。
- ⑥ これらの作業後、遊歩道を巡回しながら名札を挿しこみ、または樹幹などへ縛りつける。
- ⑦ 以上の作業は個人でやるよりも都合の付く人たち(植物名に詳しい人)で分担して作業する。花期の終わった草本類は枯れて認識不能になるものもあるので適宜挿し換えが必要になる。抜き取った名札のポールは洗えば簡単に泥が取れるので来シーズンまで保存する。
- ⑧ ただし、「グルースティック」で貼り付けてただけでは「剥落」するものがあったのでホッチキス針(6mm:専用器Vaimo11がある)で補強すれば恒久的に利用可能。

以上の方法で「森の広場」が「ミニ植物園」として利用価値が高まって行くことを期待したい。



観察会本番を前に名札付け



名札作成の一例

(2015.5.21)